

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.166

発行:平成 29 年 6 月 1 日

講習会のご案内 (お申込み・受付は前月の 20 日から)

「フラワーハンギングバスケット作り」

とき 平成 29 年 6 月 4 (日) 教材費 ¥2,500

午後 1:30~3:30 定員各 20 名

講師 フラワーマスター 山本 裕美さん



「夏に楽しむ花の寄せ植え作り」

とき 平成 29 年 6 月 11 (日) 教材費 ¥2,000

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 緑のセンター相談員



「庭木のせん定」-ツツジ類など花木-

とき 平成 29 年 6 月 25 (日)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 緑のセンター所長

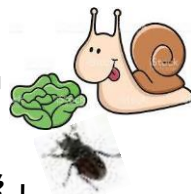


「植物の病気と害虫と農薬の正しい使い方」

とき 平成 29 年 7 月 1 (土)

午後 1:30~3:30 定員 30 名

講師 緑のセンター相談員



「観葉植物の寄せ植え」

とき 平成 29 年 7 月 2 (日) 教材費 ¥1,000

午後 1:30~3:30 定員各 20 名

講師 緑のセンター相談員



「子どもの多肉植物の寄せ植え」

とき 平成 29 年 7 月 23 (日) 教材費 ¥500

午後 1:30~3:30 定員 10 組 (小学生・保護者)

講師 緑のセンター相談員



連続講座 (3回全て参加できる方)



「プランターで育てる四季成りイチゴ栽培」

① 6月17日(土)「イチゴの育て方の基本」 全3回 20名

② 8月19日(土)「ランナー(小苗)の鉢上げ」 教材費 ¥2,000

③ 9月16日(土)「プランターに苗を定植」 13:30~15:30



「花木などの殖やし方の基本講座」

とき 平成 29 年 7 月 30 (日) 教材費 ¥500

午後 1:30~3:30 定員各 20 名

講師 緑のセンター相談員



展示会の案内 (初日午後から最終日は4時まで)

「春の写真教室作品展」6月17日~7月17日



~ 花フェスタ2017 ~

場所: 大雪アリーナ

6月14日(水)~18日(日)

10:00~16:00

※花と緑の相談コーナー併設

お気軽にご相談ください

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日 (")

〈園芸の基礎知識〉 植物の種子の構造と働き

～ 1 種子の形成と構造 ～

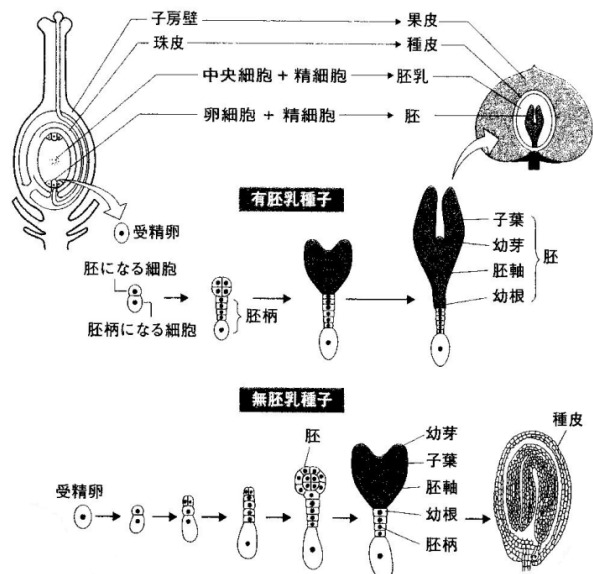
■種子の形成

花粉がめしべの先端につくと、花粉が発芽して花粉管が伸びだします。花粉管は、柱頭の細胞の細胞壁の中や細胞と細胞の間を通り、胚珠に向かって伸びていきます。花粉管の先端が胚珠内の胚嚢に達すると、花粉管で運ばれた精細胞が胚嚢に排出され、卵細胞と合体し受精卵となります。受精卵は、すぐに分裂を始めます。最初の分裂でできた2つの細胞の一方は、分裂を続けて胚になります。胚は、子葉、幼芽、胚軸、幼根に分化します。もう一方の細胞は胚柄になりますが、やがて退化します。胚嚢の中の2個の極核は、精細胞の核と融合します。この核は分裂を繰り返して、多数の核になります。その後、核を含む領域が細胞膜で仕切られて個々の細胞になり、胚乳と呼ばれる組織になります。

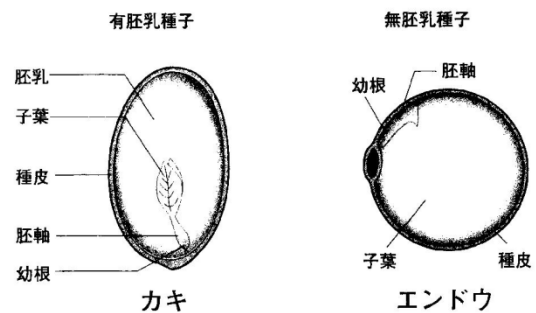
■種子の構造と栄養

タネには、栄養が胚乳という部分に貯蔵されている、イネ、ムギ、トウモロコシ、カキなどがあります。胚乳があるタネという意味で、有胚乳種子と呼ばれます。それに対し、本来は胚乳に貯蔵される栄養成分が子葉に移動したため、子葉が大きく達し、胚乳が退化しているタネがあります。ダイズ、エンドウ、インゲンマメなどのマメ類、アサガオ、クリなどです。これらには、胚乳がほとんどないので、無胚乳種子と呼ばれます。

(参考資料:ソフトバンククリエイティブ「タネのふしぎ」、講談社「これでナットク! 植物の謎 Part2」)



胚の形成



有胚乳種子と無胚乳種子

緑の相談 QアンドA (40)

スズランの鉢植えを庭に植えましたら、株は大きく育ちましたが、花が咲きませんでした。なぜ花が咲かないのでしょうか？

スズランはキミカゲソウとも呼ばれ、白い小さな白い鈴を何個もぶら下げたような可愛いキジカクシ科の多年草です。日本原産のスズランとヨーロッパ原産のドイツスズランがあります。何れも寒さに強くあまり手もかけていないのに、毎年花を咲かせる北海道を代表する春の草花です。ご質問の「花が咲かないのはなぜか？」ですが、お持ちの株は葉はすくすくと育っていて、株も大きくなっているということです。これは「肥料のやり過ぎ」が考えられます。スズランはもと高山地帯の痩せ地に育つ植物で、ほとんど肥料を必要としないのです。また、鉢植えの場合は根詰まりも花が咲かない原因の一つですので、秋に植え替えてください。

(参考資料:主婦の生活社「花の育て方大百科」、なにそれ?!倶楽部 HP「すずらんの手育て方」ほか)



植物の病害虫

その37 「土壌害虫」



例 トビイロムナボソコメツキ 幼虫 トビイロムナボソコメツキの被害 トビイロムナボソコメ成虫

1 寄生しやすい植物

ばれいしょ、トウモロコシ、麦類、にんじん、てんさい、さつまいも、アブラナ科野菜、イネ科牧草など多岐におよびます。

2 被害

幼虫が地中で多くの地下部を食害します。バレイショやダイコンでは、塊茎や根部を針金で貫通したように縦横に食痕を作るために針金虫とも呼ばれ、著しく品質を損ないます。被害はスポット状に現れ、畑一面に発生することはほとんどありません。草地跡での被害が多くなります。北海道では「ハリガネムシ」として、トビイロムナボソコメツキ、マルクビクシコメツキ、コガネコメツキの3種類が知られています。

3 生態

卵から成虫になるまでに満2年～3年を要します。地中に越冬した成虫は5月上旬から地表面に出て8月上旬頃までに盛んに活動します。この間6月中旬ころから作物周辺の土塊の下面や地表下1cm内外のところに、数粒～数十粒をひとかたまりにして産卵します。卵は粘着物によって土粒と密着しています。卵期2～3週間で孵化した幼虫は、食害を続けて中齢幼虫となって越冬します。第2年目には春から秋まで食害して老熟に近い状態まで成長して再び越冬します。第3年目の7月中旬頃ようやく老熟して、地中数cmの深さのところに室を作り、その中で蛹になります。蛹期間は10日内外で羽化した成虫は、大部分そのままの状態です。蛹室内に止まって越冬しますが、一部のものは一旦地上に現れ、秋遅くに再び地中に潜入します。発育の遅れた幼虫は第3年目にも幼虫で越冬し、4年目に成虫になります。成虫は仰向に置くと、胸部と腹部の間を折り曲げてピンとはね返るので、コメツキムシと呼ばれます。

4 防除法

1. 牧草の跡地は生息密度が高いので、被害の出やすい作物の栽培を避けます。
2. 発生地では被害の少ない作物をつくります。
3. 土地の乾燥をはかり、未熟堆肥の施用をさけます。
4. 播種前に薬剤を土壌中に散布します。ダイアジノン「商品名：ダイアジノン粒剤5」がケラ、ネキリムシに登録があり、耕起して土の軟らかいうちに、1㎡当り6g散布しクワなどで土と混和します。

日陰でも花咲く “インパチェンス”

ツリフネソウ科 ツリフネソウ属 熱帯アフリカ原産 常緑多年生植物



本来、インパチェンスの花シーズンは夏～秋ですが、気温が 15℃以上あれば花を咲かせるので、緑のセンターの温室では一年中、季節に関係なく咲いています。

また、最近では花壇で楽しめる品種もあり、1日に1～2時間程度の日照^{にっしょう}でも花をつけるので、夏のシェードガーデン^{ひかげ}(日陰の庭)を彩る草花^{いろど}としても注目されています。

夏の「強光^{きやうこう}」をきらい、秋からは日当たりを好むので、季節によって置き場を変えると花を長く楽しむことができます。

栽培のポイント

① 置き場所

- ・ 室内なら、レースのカーテン越しくらいのやわらかい光が当たる場所。気温が5℃を切ると枯れるので一年草^{いちねんそう}として扱うのが一般的。元来は毎年花を咲かせる多年草^{たねんそう}なので、乾燥気味に管理して気温を保てば冬越しは可能。
- ・ 屋外なら、霜^{しも}の心配がなくなる5月下旬以降。強い直射日光の当たらない場所や、半日陰の場所に。

② 水やり

- ・ やや湿り気のある土壌を好み、強い乾燥が苦手。鉢植えの場合は、土が乾いたらタップリと灌水。

③ 土、肥料

- ・ 赤玉土(小粒)6:腐葉土3:堆肥1の割合で混ぜた土や、草花用の培養土^{ぼいようど}に植える。
- ・ 肥料は植え付ける際に、ゆっくり効くタイプの緩効性肥料を土に混ぜ込んでおけば、あとは秋まで月2回程度、液体肥料^{えきたいひりょう}(1,000 倍に薄める)を与える程度で充分。肥料が多いと花付きが悪くなる。

④ 増やし方

- ・ さし芽^めで増やすことができる。気温の高い5～7月頃にまだ花をつけていない若い茎^{くき}をとって土に挿^さしておくと根が出る。花の付いている茎を挿しても根が出るが枝分かれしない。

展示室の植物 (73)

サンタンカ(別名 イクソラ、サンダンカ) 学名: Ixora アネカ科 サンタンカ属



サンタンカは、熱帯各地に 400 種以上の仲間が分布する常緑性^{じょうりょくせい}の低木^{ていぼく}で、日本では鉢植えで 30～100 cm 程度の樹高に育ちます。日本へは江戸時代初期に渡来したとされ、かつてはキネンシス種(Ixora chinensis)およびその園芸品種を指していました。近年では、近縁種^{きんえんしゆ}のコッキネア種(I. coccinea)なども含めてサンタンカと呼ばれています。花色は赤、オレンジ、黄、白、ピンクがあります。

緑のセンター温室で育つサンタンカは、インド原産のコッキネア種で花色は赤。四季咲き性が強く、気温があれば周年開花します。冬越しには 10℃以上の気温が必要です。